

【愛着だって発達する?! その②】

さて、前回からの続きです。＜眼球が上転し、尖足で歩き回り、自分の居室に掲示してある外出や面会のスケジュールを破って食べてしまう＞という一見ハチャメチャに見える彼女の行動の真意は？

彼女には、一年に何回かの眼球上転は今までもありました。しかし、毎日のように初めてのできごとです。尖足で歩き回るのも初めてのできごとです。さらにスケジュールの紙を破って食べちゃうなんていうのはもちろん生まれて初めての行動です。

初めての行動には、それ相応の理由があるには違いありませんが、まず私たちは支援の科学性を高めるために、それを推測する前に情報収集により事実の確認を行う必要があります。

このような課題行動の理由を知るときに一番重要な情報を得ることができるのは「その行動がいつから始まったのか？」にあります。彼女の場合も背景にある本当の気持ちに迫ることができるヒントがやはりこの質問の答えにありました。

「いつからか？」それは「8月初め頃？」、「その頃、何があった？」まずは「7月末に新入所の方があった」、「他には？」「職員の途中退職があった」そして、それに伴って「担当職員の変更があった」そして、ローテーション職員の勤務体制を充足させるために「他の部署から応援職員の派遣があった」…。次々と情報が収集され、確認されていきます。そして、それらの情報全てが、一つの方向性をもって整理されていきます。つまり7月末から8月初めにかけては、人間関係が激しく動いて、不安定になっていた時期ということになります。

その超不安定な時期に、彼女は何を思っていたのでしょうか。これだけの変化があれば、もちろん職員集団だって相当大変でしょう。使わなくてもいいたくさん心のエネルギーを費やさなくては、このような危機はどうも乗り越えることができません。

職員集団が大変な時には、当事者の方々だって同じように、あるいはそれ以上に大変なのだという常識を私たちは持つべきなのですが、多くは自分たちの大変さにかまけてそれを忘れず。

新入所があれば、新しい人が入ることで

自閉症の方が嫌う＜風景が変わる＞が必ず生じています。担当職員が変わります。そんな時、彼らは何を思うのでしょうか？まずは「自分の担当職員は変わらないだろうか？」です。そんな時にそれに追い打ちをかけるように途中退職者が出ます。さらに「担当職員が変わらないだろうか？」の疑問は膨らんでいきます。そして、さらにその不安に「自分の担当職員は途中で辞めないだろうか？」が付け加わります。

彼女に、担当職員への愛着が育っていなければ、この気持ちは今回のようなく初めて＞の行動につながらなかったでしょう。なぜなら、今までだって新入所や担当職員の変更はあったし途中退職者もあったのですから。そしてその時には今回のような行動は生じなかったのですから。なぜ今回このようなく初めて＞の行動が生じたのかは、彼女に今までとは異なる担当職員への気持ちが動いていたと考えるしかないのです。

それを確かめる実践が始まります。

＜スケジュールの紙を食べちゃう＞は、将来への不安、スケジュール通りにならない、変わってしまう不安を反映していると考え、新しく作り直したスケジュールを貼りながら、「予定した通り計画は何も変わらないし、もちろん担当は変わらない」ことを伝えました。また＜尖足で歩き回る＞行動には人生を歩んでいくには支えが欲しいと思っている彼女の気持ちを想像しながら「途中でこの仕事を辞めることはしないし、どこへも行かない、そして3月までは担当を続けるし幸せになるためのお手伝いをしたいと思っている」を伝えました。その後、彼女のこれらの課題行動は確実に消失していきました。

彼女は、今まで感じなかった担当職員喪失の不安に、眼球上転し尖足になりスケジュールを食べたのです。ひっくり返して考えれば、それほどに担当職員に愛着を感じ始めていたのでした。ついこの間まで自分の感情表現を極度に抑え込んで生きてきた彼女がこのようなポジティブな感情に揺さぶられるまでになっていたのです。

このような感情の揺さぶられこそが幸せであり豊かな人生を送ることであることだと私は考えます。ねえ、皆さん、愛着だって、発達するのですよ。